



学校だより



12月号

令和6年11月30日
江戸川区立瑞江小学校

身近な憧れの存在

副校長 小出 紀幸

11月は音楽学習発表会に向けて、どの学年も練習を積み重ねてきました。7月の校内音楽鑑賞でもラテンバンドの皆さんの演奏に合わせて楽しそうに声をあげたり体を動かしていたりしたように、瑞江小の児童は音楽や歌に対してとても楽しそうな様子を見せます。音楽学習発表会でも子どもたちらしい元気いっぱいの表現が見られることを楽しみに、練習を見守ってきました。

秋は音楽学習発表会の他にも様々な行事がありました。11月13日(水)から15日(金)までの3日間、6年生は日光移動教室に行ってきました。日光東照宮の境内の神廐舎という建物には有名な「三猿」の彫刻があります。子どもは悪いことを「見ざる、言わざる、聞かざる」という様子を表現しているものです。このような教訓は日光の「三猿」に限ったものではなく、中国の『論語』をはじめ世界各地で見られます。判断力がまだ十分でない子どもたちには触れさせるべきものとそうでないものを大人がよく考えるべきということ、いつの時代でもどこの文化圏でも考えてきたということでしょう。情報や娯楽があふれる現代社会において、子どもたちには何を示していくべきでしょうか。

先日、江戸川区立小学校 PTA 連合協議会の講演会に行ってきました。江戸川区の教育委員であり、宗家花火鍵屋 15 代目当主であり、国際柔道連盟審判員でもある天野安喜子さんの講演で、ご自身の経験や取組をもとにした教育論をお聞きしてきました。

講演の中で印象に残ったことは、天野さんの幼少期の経験のお話でした。柔道道場の館長で柔道の先生でもある天野さんのお父さんは、天野さんにとって憧れの存在だったそうです。日々の礼儀や振る舞い、ものの考え方など、多くのことについてお父さんの影響を受けて育ってきたとのことでした。子どもの身近に憧れの存在や模範とすべき存在がいるということは、その子的人格形成に大きな影響を与えるものと思います。

令和の現在、私たち大人は子どもたちの身近な憧れとなれているだろうか、天野さんの講演を聞いて思いました。私も以前の学校便りで、大谷翔平選手の目標の立て方について紹介しました。もちろん、大谷選手は子どものみならず世界中の人々の憧れでしょう。大谷選手の生き方や考え方を参考にしようとする人は、大勢いると思います。国境を超えて大スターに注目が集まる現代社会ですが、今の多くの子どもたちにとってより必要なのは、テレビやスマホの向こう側のスーパーヒーローやアイドルもきることながら、普段の暮らしの中のごく身近な生身の憧れの存在なのかも知れません。

MVP を獲るとか 50 - 50 を達成するとか、そういう壮大な偉業でなくてもいいのです。変化が激しく価値観が多様化した現代社会、大人も大人で大変です。しかしその中でも、その人なりの人生観をもち、毎日を誠実に一生懸命生きる姿を見せられているか、礼儀正しく振る舞い前向きな言葉を発しているか、乱暴な言葉遣いや悪口を聞かせていないか。私たち大人は子どもたちにとって「見ざる、言わざる、聞かざる」な存在になることなく、憧れの存在や尊敬される存在になれるよう努力しなければならないと、自戒の念を込めて考えました。身近な大人の頑張りを、保護者、地域の皆様とともに見せていきたいです。